



かとう みえこ
加藤 美江子

こうめいとう きいんだん
公明党議員団

大津市のいじめ問題について

問 大津市の中学2年の男子生徒が、「自殺の練習をさせられていた」「恐喝されていた」などといったアンケート結果を、学校も市教委も隠ぺいしていた事実に対し、津市教育委員会はこのいじめ事件をどのように認識しているのか。また、いじめを防ぐには何が一番大切なのかを問う。

答 本事件は、絶対にあってはならないことであり、また、いじめとして片づけずに、暴力という犯罪として対応するべきであると見聞きしていた。本市の学校においても仲間外しや嫌がらせ等のいじめは、起こりうると考えている。

いじめを防ぐために一番大事なことは、教師自らが、子どもたちが発しているサインを見逃さずに的確に捉える感性を常に磨くことだと考えている。また、子どもたちには、いじめは絶対にだめだということを道徳教育、人権教育を通じてしっかりと学ばせ、子どもたち同士が、いじめの場面に遭遇したときは、注意できるような仲間づくり、学校づくりをしていく必要があると考えている。

●その他の質疑・質問●

○防災対策について

- ・津波避難計画策定の進捗状況
- ・津波避難協力ビルの指定の今後の進め方は

- ・防災教育は今のままで十分か
- ・幼・小・中の避難訓練の充実

○通学路の安全対策について

- ・緊急合同総点検の結果は
- 「津地域医療学講座」とは
- ・どのような講座か

- ・家庭医療拠点病院とは など



▲いじめ・人権に関するパンフレット



わだ かしお
和田 甲子雄

にほんきょうさんとう つしぎだん
日本共産党津市議団

新たな被害想定にもとづく地震・津波対策を

問 南海トラフ巨大地震の被害想定推計は、M9.1、震度7の揺れ、津波は6～7m、犠牲者は従来の13倍とされている。この想定に基づく地震・津波対策の見直しを。津波から早く避難する、家屋の耐震補強、家具転倒防止対策等で犠牲者を8割減らすことができる。常に最悪を想定し、命を守ることを最優先にする防災対策を。社会的弱者の避難は行政の責任で対応を。

答 津市の地域防災計画における津波対策は、従来の予測であったM8.7の地震を想定して策定している。

今回の内閣府の想定は、発生頻度は極めて低いが、甚大な被害をもたらす地震が起こりうる。これをどのように地域防災計画の中に書き込むかが課題である。現在の津市の地震対策・津波対策は、震度7、あるいは津波の浸水に備えた津波避難ビル等の津波避難計画を進めており、基本的にとるべき考え方に大きな変更はないが、最悪の場合に備えて防災は考えるべきという趣旨からも今後地域防災計画の見直しも検討していく。

住宅の耐震化については、耐震化促進計画をつくって推進しているが、計画どおり実行できるようさらに対策を進めていく。

●その他の質疑・質問●

○災害時応急対策の充実

- ・災害発生時の自治体機能（施設及び職員）の確保を

- ・総合・部署ごとの図上訓練で課題を見出す実践的な訓練を

○職員の長時間労働をなくせ

○精神障がい者の運賃割引の充実

○福祉医療費助成の拡大を

- ・福祉医療費の窓口無料化を
- ・精神障がい者の通院、入院の助成拡大を など



▲避難経路等を確認するタウンウォッチングの様子